

# 国際連帯、国内連帯の力でパレスチナ・ウクライナ即時停戦を勝ち取ろう！ 沖縄、琉球弧、全国の軍事化を止め東アジアの平和を切り開こう！

- 日時 7月28日(日) 午前9時30分～12時
- 会場 エル・おおさか(エル・シアター)
- 主催 ZHAP(ZENKO辺野古反基地プロジェクト)
- Zoom オンラインでもつなぐ予定です。 ■連絡先 日南田(090-8602-4232)



## 呼びかけ

パレスチナ人の死者は3万8千人をこえました。その7割以上が女性と子どもです。6/5～6にかけてIDFイスラエル国防軍はガザ中央部にあるUNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)が運営する学校を何の事前警告なしに爆撃し40名以上の子どもが死亡、さらに数百人が負傷しています。この学校には6000人以上の難民が避難しており、一夜にして校庭は血の海と化しました。ハマスを口実にしたパレスチナ人の根絶、民族浄化の蛮行続いています。

これに対して日本政府は防衛省がイスラエルから攻撃用ドローン輸入を検討開始する等イスラエルへの露骨な支援を続けています。殺傷能力のある武器輸出解禁も決め、三菱重工がライセンス生産しているパトリオットミサイルを米国に逆輸出することでウクライナへの間接的な武器支援に乗り出しています。また日米韓は大規模軍事訓練「フリーダムエッジ」を6月末に実施します。米海軍の原子力空母「セオドア・ルーズベルト」が参加するなど、インド太平洋地域のNATO化の要として挑発を強めています。

このような情勢下、4・29国際シンポを成功を踏まえ、国際連帯の力で、ガザ虐殺阻止パレスチナ解放、ウクライナ即時停戦を実現し、沖縄～全国～東アジアの軍事化を止める、そのために米国、パレスチナ、沖縄、全国各地域での闘いが連帯し、とりわけ日本政府・企業のイスラエルのジェノサイド加担、ウクライナ軍事支援を止めさせるための秋からの行動方針を確立していきましょう。



第一分科会に参加される  
海外ゲストの方々



モハンマド・アロシュさん  
パレスチナ人民闘争戦線



アーメド・フセインさん  
DSA 全国政治委員



サミール・アディルさん  
イラク労働者共産党書記長